

質問事項集約 1

【鈴木先生から】

S1) フランスでは、作文と論文（哲学の時間に記述されるレポート）との違いを、どのような教材で指導するのか。→別の科目であり、フランス語は高校2年次まで、哲学は高校3年次のみという「住み分け」もあるので、フランス語教員も哲学教員もその差異を指導することはないと思います。

典型事例を教えてください。

背景；日本の高校生は、小論文の中に、必ず自分の「感想」（判断）を入れる。

その自分の「感想」（判断）の根拠を示す必要はあるが、他者との違いを論じたり、そこから深掘することを求められていない。

S2) 日本の高校生や大学の初年次生は、「まとめる」という語を使う。

「論点を整理する」とか「問題を小分けにする」という概念がないからだ。

フランスでは、どの段階で、「論点を整理する」とか「問題を小分けにする」という概念を指導するのか。

→集中的に行うのは高校3年の哲学ではないかと思われませんが、フランス語の小論文でもこうした論点の設定は重要だと思われるので、ぜひお尋ねしたいところです

【児玉先生から】

お尋ねの件ですが、直接その場に居られないことから私からの「追い質問」というのができませんので、日仏の作文教育を比較して共通点や相違点などを考えるための基礎的な質問をお願いすることといたします。大きな問いとしては、「フランス語科（日本でいう国語科）」で学ぶ作文と「哲学科」で学ぶ作文との共通点や相違点は何か」ということです。この問いの下位項目となる問いは以下の通りです。

K1) 作文指導についての指導目標（目的）の違いやそれを規定するものは何か。→これは私の方で指導要領を見てご説明した方がいいかもしれません。高校のバカロレアでは文学的テキストの抜粋の説明1題、数編の課題作品（年度初めに公開され、高校2年生は必ずその作品について授業で学びます）についての小論文（ディセルタシオン）3題のうち一題を選択して回答します。中学校の場合は、ディクテーション、文法、作文（テーマや状況、守るべきスタイルが与えられ、それに従って書くもの。たとえば今年の中学卒業資格試験では、マルグリットという若い女性の話を与えられた書き出しに続いて一人称で書き、最後は彼女が負っている怪我の原因を説明せよ、という問題、あるいは、そのような語りが聴くものに対してどのような影響を与えるかを、芸術に関する自分の知識をもとに考察せよ、という問題が出題されました）

K2) 指導する教師に違いはあるか（フランス語科の教師も哲学科の作文指導をするのか）。→哲学の作文指導は哲学教員のみが行います

K3) 作文の指導のための年間カリキュラム上の授業時数の違いはどの程度あるのか。→中学校の場合

フランス語は週 4 時間から 4 時間半、高校は週 4 時間です

K4) 作文の題材（教材）面における共通点と相違点はどのような点にあるか。→文学作品か哲学的著作かという違いがありますが、たとえばルソーはフランス語でも哲学でも扱われます。とはいえフランス語ではその文学的価値の分析に重点が置かれ、哲学ではその主張の哲学的意義が主に扱われます。

K5) 作文の方法（書き方）面における共通点と相違点はどのような点にあるか。→高校では弁証法的構成がフランス語作文でも重視されます（渡邊雅子先生の本が詳しいです）

K6) 定期テストや大学入試などにおける評価の観点や方法にどのような違いがあるか。→成績評価については、バカロレアないしは中学卒業資格試験（Brevet）の問題形式に準拠した試験問題で評価されるはずです。ですので、バカロレアや Brevet の問題を見ればおおよその見当は付けられます

K7) 哲学科の作文指導を通して、諸外国などと比べてフランス人の論理的な思考力や表現力の育成はどの程度成果を上げていると感じているか。

→これはおそらくフランス人にとっては非常に答えるのが難しい問いですが、ぜひお尋ねしたいと思います。